

延命の人工透析 中止も選択肢

学会が提言案

人工透析が必要な患者が、回復の見込みがない終末期を迎えた場合、本人や家族が透析を望まなければ、中止も選択肢とする提议案を日本透析医学会がまとめた。人工呼吸器や栄養補給の中止までの手順を定めた日本救急医学会などの提言に続き、本人の望みに反した延命を減らすことにつながる動きだ。

重い腎不全で、人工透析をしない

と生命が維持できない患者は国内に約30万人。新たに導入する患者の平均年齢は68歳で、80歳以上は約2割を占める。

人工透析の9割以上を占める血液透析は週3、4回、専門の医療機関などで行う。血液を体外に取り出し、機械を使って体にたまつた余分な水分や老廃物を取り除く。

提言案では、自分で意思を決めることができる患者が「自然な形が良い」などと透析を拒否した場合、医療チームと十分に話し合い、合

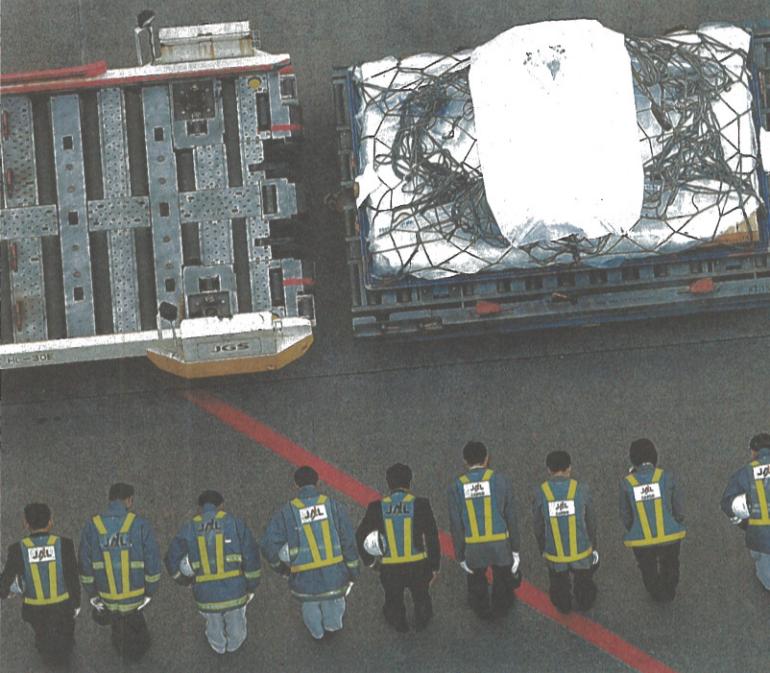
意すれば家族に伝え、合意内容を文書にして「透析の見合わせ」を決める。

本人が意思を決めることができず、家族が透析を拒否した場合は、家族と十分に話し合い患者の意思を推定できれば、その決定を尊重する。透析の継続が体に悪影響を及ぼすと考えられる患者も対象にする。患者や家族の思いが変われば、透析を再開する。

透析を中心すれば、通常、1週間から1ヶ月で、「亡くなる」という。案を学会ホームページ (<http://www.jsdt.or.jp>) で公表、3月末まで意見を募り、6月に最終案を発表する予定。

(社外記子)

www.elliotte.com



厳しくも優しか

同年入社とはいえ、大学院を出た新谷さんは4歳も年上だった。事業本部長として海外を飛び回っていた新谷さんは、帰国すると「お、やつとるか」とねぎらってくれた。

新谷さんは昨年6月、代表取締役副社長を退き、最高顧問に就任。アルジェリア事業を統括する立場で、定期的に現地の交渉に参加していく。イナメナスの天然ガス生産プラントに出張し、事件に巻き込まれたという。

されたのは2人。このほか3人は後頭部を撃たれたり、胴体を複数撃たれたりしていた。残る4人は大量の出血で窒息するなどしていた。神奈川県警は遺体に残された破片などを鑑定し、武装勢力とアルジェリア軍のどちらの武器で死亡したのかを調べるほか、日本人の生存者からも聞き取りをする。警察当局は事件

現地対応のため派遣され、新谷さんの遺体とともに帰国した城内実外務政務官は26日、首相公邸で安倍晋三首相に報告した。

る男性の遺体を、
た結果、死因は、
どだつたと発表、
れて動けなくな
火災により死亡
て、現住建造物

安倍首相

城内政務官が報告

新谷さんは死「」確認が
日にずれ込んだため、政
専用機からは1日遅れの
国になつた。

刺された



古都 ほむら立つ

奈良の冬の風物詩、若草山（342
辻）の山焼きが26日夜にあつた。冬枯れ
の山肌が炎で染まり、約18万人の見物客